

事例 小学校体育科
1 単元について

飛騨地区（G小学校）

対 象 学 年	小学校 第5学年
学 習 指 導 要 領	第5学年及び第6学年 「B 器械運動」
単 元 名	「跳び箱運動」 （全5時間）
単 元 目 標	<p>(1) 技 能（運動の技能） 跳び箱の上でまっすぐ回転する「台上前転」ができ、着地でピタッと止まることができる。</p> <p>(2) 態 度（運動への関心・意欲・態度） 仲間と教え合い励まし合って根気強く活動し、補助をし合って安全に気を付けて運動することができる。</p> <p>(3) 学 び 方（運動についての思考・判断） 自分の目指す姿を見付け、自己の能力に適した目標や課題を設定し、適切な練習の場を選択したり、練習の仕方を工夫することができる。</p>
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 単元指導計画の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 器械運動は、技能習熟に個人差が大きい運動であるため、どの児童にも達成の喜びが味わえるよう、ゆとりある時間数を確保する。 器械運動の特性や児童の心身の発達を踏まえた上で、運動習熟のみちすじを明確にし、学習内容を位置付けるようにする。 器具が固定していることから、運動する者と見る者（教える者と教わる者、評価する者とされる者）の相互関係を深め、質の高い役割活動やきまりの設定等によって、相互援助活動を活発にし課題追求を主体的かつ継続的にできるようにする。 個々の児童の技能の伸びを確かめ、評価会で得点の判定を確かなものにしていくために、技のできばえを得点化した段階表を準備する。 <p>単位時間の工夫 計画の場面</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体計画会では、示範やVTR等によって個人課題やつまずきの解消の仕方を具体的にイメージがもてるよう工夫する。 グループ計画会では、グループや個人の課題を確認し合い、リーダーからの練習方法やきまりの提案によって1時間の進め方を確認する。 <p>展開の場面</p> <ul style="list-style-type: none"> 器械運動は、「できない」から「できる」までの壁が大きい運動であるので、根気強く運動に取り組むとともに安全に運動させるために、十分な練習時間を確保する。 技能の劣る児童には、運動の抵抗を少なくしたり補助具等を準備した練習の場を工夫する。 つまずきの要因（恐怖心等の心理的なもの、調整力不足や肥満体型等の身体的なもの、技術的なもの）に応じた手立てを多くもち、個に応じた指導の充実を図る。 運動技能を高め、学習態度を養うために、きまりを守ることの大切さを徹底することにより、学習に対する厳しさをもてるようにする。 相互援助活動を活発化するために、例えば技能のグループ平均得点によるグループ対抗を仕組む等、授業形態を工夫する。 <p>評価の場面</p> <ul style="list-style-type: none"> 単位時間の終わりに個人やグループの課題に対する評価をし、成果や問題点を話し合い、互いの伸びや努力について認め合うことにより、次の活動への見通しや意欲がもてるようにする。 使用する器具が多く、その準備と後片づけ、安全点検などの時間も考慮する。
参 考 資 料	<p>資料1：学習カード・・・個人のめあてをもたせるために使用 資料2：POカード・・・課題達成度（技能）の記録として使用 資料3：MOカード・・・規範生成度（態度）の記録として使用 資料4：段 階 表・・・技能のできばえを評価したり個人のめあてをもたせるために使用</p>

2 単元の評価規準

	ア 運動への関心・意欲・態度	イ 運動についての思考・判断	ウ 運動の技能
内容ごとのまとめと評ま価り規準	器械運動の楽しさや喜びを求めて進んで取り組もうとする。また、互いに協力して運動をしたり、器械・器具の安全な使い方注意して運動をしたりしようとする。	自分の力に合った課題の解決を目指して、練習の仕方を工夫している。	マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動の特性に応じた技能を身に付けている。
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った課題をもって進んで取り組み、器械運動の楽しさや喜びを味わおうとする。 (楽しさ体験) ・順番を守ったり、きまりを守ったりして練習に取り組もうとする。 (社会的態度) ・仲間と協力し励まし合っで運動をしようとする。 (社会的態度) ・仲間と助言し合いながら、安全に気を付けて運動をしようとする。 (安全な態度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った技を選んでる。 (課題達成) ・技のポイントについて考え、自分に合った課題がもてている。 (課題達成) ・学習カードや補助具を活用して、自分に適した練習の場や練習の仕方を選んでる。 (課題達成) ・技の技術構造や発展性を理解している。 (知識・理解) ・学習の進め方や練習の仕方、場づくりの方法を理解している。 (知識・理解) ・技のできばえを、段階表をもとにして評価している。 (評価) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った跳び箱の高さで、まっすぐ回転する台上前転ができる。 (技能向上)

	ア 運動への関心・意欲・態度	イ 運動についての思考・判断	ウ 運動の技能
単位時間における具体的な評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 跳び箱運動の楽しさや喜びを味わおうとする。 ・ 器械や器具の使い方を工夫したり、補助をし合っ て安全に気を付けて運動しようとする。 ・ 自分から進んで学習に取り組み、仲間と互いに課題として いる動きのポイントについてできているかどうかを見合い、ど のようにしたらできるのかを教え合っ て運動しようとする。 ・ 仲間が目標に向かって努力している点や少しでも伸びが みられた点を言葉や拍手で認めていこうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 台上前転の技の技術構造を理解し、それを達成する ための学習の進め方を理解している。 ・ 段階表から自分の目指す姿が 分かり、自分に合った目標を見 つけることができる。 ・ 段階表や学習カードを使っ て技のポイントについて考 え、自分に合った課題をも つことができる。 ・ 自分に適した練習の場や 練習の仕方を選ぶことが できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 跳び箱の上でまっすぐ回 転する台上前転ができる。 ・ 跳び箱の上でまっすぐ回 転する台上前転ができ、 着地でピタッと止まるこ とができる。

3 指導と評価の計画 (全5時間)
 (1) 評価規準を盛り込んだ単元指導計画

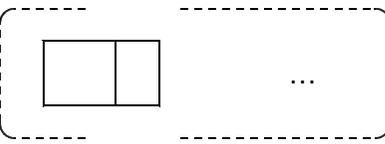
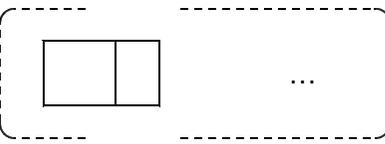
跳び箱 台上前転 単元指導計画

G小学校

条件	学 習 内 容		観 点 別 評 価 規 準 及 び 方 法				
	過 程	運 動 の 側 面	集 団 の 側 面	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	
計 画	1	ねらい 「跳び箱の上でまっすぐ回転する台上前転ができ、着地でピタッと止まることができる」	ねがい 「グループやペアで補助をし合い、動きのポイントについて見合い、教え合いができる仲間になることができる」	・跳び箱運動の楽しさや喜びを味わおうとする (学習カード・観察)	・台上前転の技の技術構造を理解し、それを達成するための学習の進め方を理解している (学習ノート・観察)		
	展	2	【記録会】 自分や仲間の力を知り、自分に合った課題をもつことができる	リーダーの指示に従ってみんながそろって活動できる ・順番や決まりを守って練習ができる	・器械や器具の使い方を工夫したり、補助をし合って安全に気を付けて運動しようとする (MOカード・学習カード・観察)	・段階表から自分の目指す姿が分かり、自分に合った目標を見付けることができる (POカード・学習カード・観察)	
		3	跳び箱の上でまっすぐ回転することができる ・強い踏み切りから腰を高く上げる ・両手の間に頭を入れ、後頭部から跳び箱につく ・背中を丸める	お互いに補助をし合いながら見合い、教え合ったり励まし合ったりできる ・補助が確実にできる ・お互いに見合い、必ず声をかけ合う		・段階表や学習カードを使って技のポイントについて考え、自分に合った課題をもつことができる (学習カード・観察)	・跳び箱の上でまっすぐ回転する台上前転ができる (POカード・学習カード・観察)
		4	跳び箱の上でまっすぐ回転し着地でピタッと止まることができる <3点> ・背中を丸めて回転する ・着地でつま先に力を入れて踏ん張る 【発表会】 学習の成果を発揮することができる	・お互いに見合い、必ず声をかけ合う ・こうするといよいよ具体的なアドバイスができる ・できるようになるまで励まし合うことができる	・自分から進んで学習に取り組み、仲間と互いに課題としてできているかどうかを見合い、どのようにしたらできるのかを教え合って運動しようとする (MOカード・学習カード・観察)	・自分に適した練習の場や練習の仕方を選ぶことができる (学習カード・観察)	・跳び箱の上でまっすぐ回転する台上前転ができ、着地でピタッと止まることができる (POカード・学習カード・観察)
	評 価	5	【反省会】 発表会成績(順位・G平均) 課題達成度(個人得点・伸び)	協力活動の程度 集団結合度	・仲間が目標に向かって努力している点や、少しでも伸びが見られた点を言葉や拍手で認めていこうとする (MOカード・観察)		

説明：POカード(課題達成表)、MOカード(きまり点検表)

跳び箱 台上前転 単元指導計画

条件	学 習 内 容		学 習 活 動	教 師 の 指 導	
過程	運 動 の 側 面	集 団 の 側 面	運 動 の 側 面 ・ 集 団 の 側 面	運 動 の 側 面	集 団 の 側 面
計 画	ねらい 「跳び箱の上でまっすぐ回転する台上前転ができ、着地でピタッと止まることができる」	ねがい 「グループやペアで補助をし合い、動きのポイントについて見合い、教え合いができる仲間になることができる」	・説明を聞いて単元全体の見直しをもつ ・1グループ4～5人(全8グループ)グループ間等質、グループ内異質 ・グループで学習計画を立てる 役割の分担(L、P Q MO) めざす仲間像の決定、きまりの設定	・VTRや示範により課題のイメージ化を図り、意欲の喚起を図る ・学習ノートを使い、学習の仕方を具体的な場面を通して説明する	・個人的スポーツであることから援助活動を大切に 見合い、教え合いによって高まる様子を語る ・きまりの守り方を具体的な活動場面を例示し説明
展 示	【記録会】 自分や仲間の力を知り、自分に合った課題をもつことができる	リーダーの指示に従ってみんながそろって活動できる ・順番や決まりを守って練習ができる	場の設定 集合場所 1G～8G 縦コース・記録会の試技は2回 1G 2G 3G 4G 5G 6G 7G 8G グループ練習(補助の仕方) 	・全員で準備(跳び箱5段:縦) ・Lの指示で活動 ・P Q採点 ・MOきまり点検	・準備や片付けの仕方、補助の仕方を実際にやって見せながら示す ・声をかけ合いながら気持ちのよい態度で活動している班や個人を認め全体に価値付ける ・学習のきまりやリーダーの指示に従えない子には教師の指導により価値を教えるとともに、グループの関わりを意図的に仕組む ・うまくできない子に温かく接し補助やアドバイスする姿や安心して活動する雰囲気全体に価値付ける
	跳び箱の上でまっすぐ回転することができる ・強い踏み切りから腰を高く上げる ・両手の間に頭を入れ、後頭部から跳び箱につく ・背中を丸める	お互いに補助をし合いながら見合い、教え合ったり励まし合ったりできる ・補助が確実にできる ・お互いに見合い、必ず声をかけ合う	グループ練習(補助の仕方) 	・試技と補助を交代で行う ・一人15回以上練習 ・(L)活動の援助 ・(PO)技能観察・採点 ・(MO)援助のきまり点検	・段階表を活用し、各得点の姿を明確に示範するとともに、確かめ(評価)方法を説明する ・自己に応じた目標や課題活動が決定できるよう、運動の見方ややり方を端的に話す ・計画会で、練習の場や練習方法について説明し、子どもたちに選択させる ・その子の目指す姿と課題や技術ポイント、練習場所が合っているかどうかを見て回り、修正する。 ・恐怖心が強い子には * 特設コースでの練習や補助により安心感をもたせる ・頭頂部を着いてしまう子には * マットでの練習 * 跳び箱を2台つなげ、回転の練習 ・着地が不安定な子には * 助走のスピードを確認しゆっくり回転 ・膝が曲がる子には * 踏み切り後の膝の確認 * マットでの練習
開	跳び箱の上でまっすぐ回転し着地でピタッと止まることができる <3点> ・背中を丸めて回転する ・着地でつま先に力を入れて踏ん張る	・お互いに見合い、必ず声をかけ合う ・こうするといよいよ具体的なアドバイスができる ・できるようになるまで励まし合うことができる	一時間の流れ 計 画 会 前半練習 研 究 会 後半練習 テ ス ト 会 反 省 会 ・競技会の運営(各P Qが採点) ・グループ順に一人2回試技	・(L)課題達成の推進 ・(P O)技能観察や採点 ・(MO)きまりの点検	・うまくできない子に温かく接し補助やアドバイスする姿や安心して活動する雰囲気全体に価値付ける ・試技の前に「 ってよ」と声をかけさせて見るポイントを明確にもたせる ・できていたかどうかだけでなく、できていなければどうするとよいのか具体的にアドバイスの例を示す
評 価	【競技会】 学習の成果を発揮することができる	協力活動の程度 集団結合度	・グループの活動全体を相互評価する 課題達成度 きまりの守りぶり 役割の果たしぶり 仲間の心の結び付き	・記録だけでなく、練習等の過程での頑張りや工夫を認める	・グループや個人のがんばりを認める。

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のめあて

技能の内容：強い踏み切りから腰を高く上げ、後頭部の接地を経て、背中を丸めてゆっくり回転することができる。

態度の内容：お互いに補助をし合い、腰の高さや後頭部の接地を見合い、教え合ったり励まし合ったりすることができる。

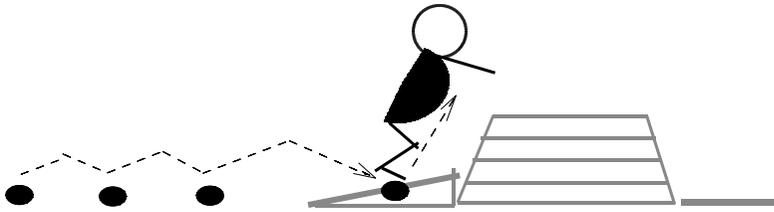
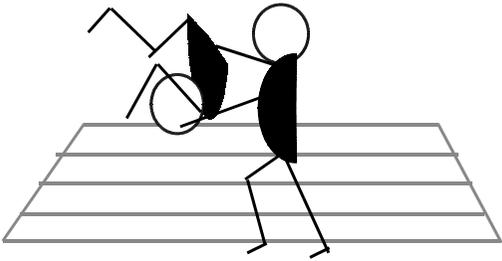
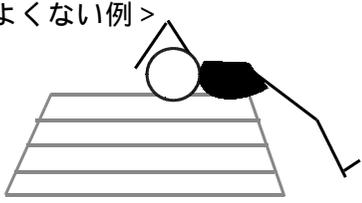
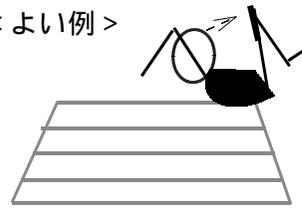
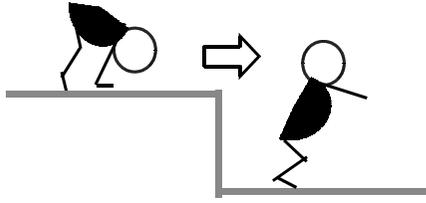
学び方の内容：段階表や学習カードを使って、技のポイントについて考え、自分に合った課題をもつことができる。

(2) 本時の位置 3 / 5 時

(3) 展開案

条件	学 習 内 容		学 習 活 動	教 師 の 指 導	
過程	運 動 の 側 面	集 団 の 側 面	運 動 の 側 面 ・ 集 団 の 側 面	運 動 の 側 面	集 団 の 側 面
計 画 会 7	<p>強い踏み切りから腰を高く上げ、後頭部からクルッと接地し、ゆっくり回転することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ課題、個人課題の把握 	<p>補助をし合い、腰の高さや後頭部の接地を見合って、教え合ったり励まし合ったりできる</p> <ul style="list-style-type: none"> めざす仲間像、きまりの把握 	<p>器具の準備・準備運動</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに分担しテキパキと準備 低い段やマットでの練習 全体会 先生から本時のめあての説明を聞く 計画会 リーダーの司会でグループごとに学習計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> 段階別に目指す姿やポイントをしていねいに説明する <p>【課題達成】</p> <p>段階表や学習カードを使って技のポイントについて考え、自分に合った課題をもつことができる</p> <p>つまずきの原因を段階表や示範によって明らかにし、ポイントや練習場所を確かめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時の仲間との関わりを例示し心の結び付きを大切に行動の仕方を説明する 試技の前に見てもらふポイントを大きな声でかけ合うように指示する 補助を確実に行えるように、立つ位置、支える部位について示範をして見せる
展 開	<p>安定した回転ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> 踏み切りを強くし、腰を高く上げる 両手で体重を支え、後頭部からゆっくり跳び箱につく 後頭部から背中への接地を経て回転し静かに着地する 前半練習を振り返り、後半練習のめあてを確認することができる 研究会での課題を意識して、後頭部から跳び箱についてゆっくり回転することができる <p>本時の学習の成果を発揮することができる</p>	<p>見る視点を確認し合いながら、教え合って活動できる</p> <ul style="list-style-type: none"> 試技の前の見てもらふポイントの確認の声 試技後のアドバイス <p>お互いの課題達成に向けての練習の仕方を教え合い、素直に受け入れることができる</p> <p>精一杯の取組ができるよう励まし合い、それに応え合うことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> よさを認める励まし 評価表に基づいた点数による評価 	<p>グループ練習</p> <ul style="list-style-type: none"> グループでつまずきの多い仲間を中心に練習する マット上での模擬練習(L)推進・援助 腰上げ練習・後頭部からの接地練習 特設コース；低い段での補助練習 <p>研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> 前半練習の様子を交流し合い、後半練習のめあてを話し合う(L)進行 <p>課題別練習</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の技能に応じた練習場所で練習する <p>マット 低い段で 特設</p> <p>テスト会</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ内で順番に一人2回の試技を行う(L)進行(PQ採点) 	<p>【技能向上】</p> <p>跳び箱の上でまっすぐ回転する台 上前</p> <p>転ができる</p> <p>強く踏み切るために、助走の最後の一步を大きく踏み込ませる</p> <p>踏切り時の腰上げを強調する</p> <p>頭頂部が着く子には、マットで練習をさせ腰を高く上げ、両手支持を体感させる</p> <p>補助をしてもらい、ゆっくり回転して背中を順に着ける感じをつかませる</p> <ul style="list-style-type: none"> 目指す姿が実現できた子にはそのできばえを認め、更に次の課題をもたせ練習させる 評価にあいまいさがでないよう、学習ノートとともに見る位置を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 課題意識を持続し、仲間にも分かり合えるよう、試技の前の声を確認し合うようにリーダーに指示する アドバイスするポイントを焦点化して(後頭部)、グループ内で声をかけ合いながら取り組む雰囲気を生み出す 確実に補助をし合うことが、安心して練習できる雰囲気づくりにつながることを話し、補助の仕方が正しくできているグループを賞賛する 各自の課題について教え合うとともに、前の試技より少しでもよくなった点を見逃さずに認め合うことを大切にするよう話す
反 省 会 5	<ul style="list-style-type: none"> グループや個人の課題の達成度について 学習の成果について 	<ul style="list-style-type: none"> グループ、個人のきまりの守りぶりについて 学級全体の仲間の姿について 	<p>反省会</p> <ul style="list-style-type: none"> リーダーを中心に、テスト会の結果やきまりの守りぶりについて話し合う 全体会 グループや個人の成果を発表し合って振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> 評価の点数だけでなく、取り組みの過程で、うまくなるポイントなど新たに見付けられた点を聞き、認め励ます 	<ul style="list-style-type: none"> 技能を高めることに結び付いた援助活動の具体的な事実を示し互いの心情を話させることで仲間づくりのよさに気付かせる

5 評価の実際と個に応じた指導事例

<p>「運動の技能」の評価規準</p>	<p>跳び箱の上でまっすぐ回転する台上前転ができる (第3時間目に評価)</p>	<p>跳び箱の上でまっすぐ回転する台上前転ができ、着地でピタッと止まることができる (第4時間目に評価)</p>
<p>評価方法</p>	<p>Pカード、学習カード、観察</p>	<p>Pカード、学習カード、観察</p>
<p>「努力を要する」と判断した状況</p>	<p>踏み切りで腰を高く浮かせることができず、回転ができない 跳び箱の上に頭頂部が着いてしまい、まっすぐにクルッと回転することができない</p>	<p>体は跳び箱の上にあるのに、足だけ伸ばしてしまう ゆっくり回転しすぎて失速し、しりもちを着く 勢いよく回転しすぎて、前へ転んでしまう</p>
<p>その要因</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・踏み切りが弱く、腰が上がらない ・両手で支持する力が弱く、回転時にすぐに頭が着いてしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ・上半身を起こすタイミングが遅い(調整力不足) ・回転後、足を着けるタイミングが分からない
<p>指導の手だて</p>	<p>【手だて1】 低い跳び箱で、勢いよく助走をし、最後の一步を大きくして強く踏み切る感覚をつかませる</p>  <p>【手だて2】 補助で背中を支え、後頭部から背中順に跳び箱に着きながらゆっくり回転する練習を行う</p> 	<p>【手だて1】 ひざにサポーターをつけて、ひざを見ながら回転する練習をして、上半身を起こす感覚をつかませる</p> <p><よくない例></p>  <p><よい例></p>  <p>【手だて2】 高いところから回転して降りる練習を行い、両足着地でピタッと止まるタイミングをつかませる</p>  <p>【手だて3】 着地時に補助で体を支え、つま先でふんばる感覚をつかませる</p> 